



NEWS LETTER 第3号 (2025.3.27)

「学び続ける教員へのメッセージ」シンポジウムを開催しました

今年度も「学び続ける教員へのメッセージ」として、2024年11月2日（土）に対面形式で行い約60名の参加がありました。テーマを『これからの教育（令和の日本型学校教育）と教師に求められる資質能力 学習者主体の授業づくりから学ぶ、個別最適で協働的な授業の作り方』とし、大松有香氏（京都市立藤城小学校）、若松俊介氏（京都教育大学附属桃山小学校）、鈴木英太氏（京都教育大学）、大久保紀一郎氏（京都教育大学）の計4名のシンポジストと、樋口とみ子氏（京都教育大学）をコーディネーターとして開催しました。前半部分ではシンポジスト発表として、メディア教育や特別支援教育、教育現場での実践という視点から情報提供をいただき、後半部分では参加者からチャットツールを用いて寄せられた質問に答えながら、各シンポジストの知見から対談と意見交流を行いました。参加者からの多くの質問に、各シンポジストから返答をいただき、より現場での実践に焦点をあて、「学習者主体」という考え方について理解を深める場となりました。



写真：シンポジウムでの意見交流の様子
（左から 樋口とみ子氏、大久保紀一郎氏、大松有香氏、若松俊介氏、鈴木英太氏）

各事業の報告

生成AI活用講座の状況報告

生成AI活用講座を、10月、11月、12月、1月とそれぞれ1回ずつ開催しました。毎回、生成AIの最新情報や学校現場、企業等での生成AIの活用状況等に関する情報提供の後、実際に生成AIを活用したワークショップを実施し、そこで考えたことや気づいたことから、自分たちが学校現場の校務や授業でどのように活用できるか、また、児童生徒に指導する際にはどのようなことを伝え、考えさせないといけないか、といったことを議論しました。第2回の開催となった11月には、ゲストティーチャーに京都市立小学校の教諭を講師に招き、実際の学校現場で生成AIがどのように活用され始めているかを学びました。第3回の開催となった12月には、一般企業での生成AI活用による業務の効率化の事例を学びました。第4回の開催となった1月には、生成AIボイスレコーダーを自分たちの議論で活用し、校務や授業での活用を考えるとともに、今後の学校教育のあり方について議論しました。実際に生成AIを使ったワークショップを体験したり、講座と講座の間の期間の普段の生活や授業でも生成AIを活用することにより、参加者自身が生成AIについて学びを深める様子が多くみられるようになってきました。GIGAスクール構想で整備されたデジタル学習基盤に続き、生成AIの利活用も始まっており、学校教育のあり方も変わり続けることを前提にする時代になってきたことが感じられる講座になりました。

特別支援教育連携講座

9月27日（金）にキャンパスプラザ京都にて特別支援教育・京都教育大学サテライト講座「発達障害のある児童生徒理解～通常の学級におけるアセスメントと支援の在り方～」が行われ、小谷裕実教授と榊原久直講師（総合教育臨床センター）にご講演いただきました。榊原講師からは愛着関係と発達特性を踏まえた、子どもの視点に立った支援について、小谷教授からは、医療の観点からの発達障害へのアプローチ方法について講演いただきました。

本講座には約120名の京都府立学校教員が参加し、アンケートでは「さまざまな生徒がいて、この子にはどういう手立てをしたら良いのかと悩むときが多くありますが、今回の講義を今後につなげていきたいです。生徒に対しての視野が広がりました。」「教育現場に寄りそった内容で、実際の現状や事例を想定しながらお話を聞くことができました。」などの感想があり、好評を博しました。



学校経営関係講座

本学主催の学校経営講座を3回（8月20日、12月24日、12月25日）開催しました。8月20日（火）は竺沙知章教授（連合教職実践研究科）に、12月24日（火）は仲谷仁志弁護士に、12月25日（水）は風岡治教授（愛知教育大学）に講師を務めていただき、学校を運営していく上で重要となる「学校経営と教育法規」や「カリキュラムマネジメントと学校財務」について講義の上、グループセッションを行いました。

学校教員の方々のみならず学校事務職員の方々にも研修にご参加いただけたことから、グループセッションではそれぞれ異なる立場での学校運営に関する意見交流等も活発に行われており、活気あふれる研修となりました。

アンケートでは「教育職員と事務職員の協働が学校経営においてとても大切であることを再認識しました。貴重な研修の場となりました。」「財務は苦手とすることが多いですが、少しでも面白さを感じることができました。すぐに実践できることは少ないかもしれませんが、やれることに取り組んでいきたいと思います。」などの意見があり、好評を博しました。

今後もセンターでは教員養成・研修の支援を行っていきます



スポーツ指導者養成事業

2024年度の体育・スポーツ指導力養成プログラムでは、前期授業科目である『スポーツクラブ指導入門』では、24人の学生が受講し、運動指導に関する基礎事項や子どもたちとの関わり方を学んだ後、4つの運動教室に分かれて子どもたちに対して運動指導の実習を行いました。受講生の3分の1の学生は体育領域専攻以外の学生でした。また、体育領域専門の学生も自分の専門種目以外の運動教室に配置されます。運動指導の実習では、子どもたちに教えることの難しさと、子どもたちができるようになる瞬間に立ち会った喜びを同時に感じながら、学生生活での学びをどのようにしていこうかという動機付けになっている様子が多く見られました。後期には、スポーツクラブ指導入門の学びを受けて指導のインターンシップに参加する学生たちもあり、プログラムの中で子どもたちと関わった経験を、教育実習などの次のステージで活かしてくれることを期待しています。



教師を目指す高校生応援セミナーについて

教師を目指す高校生に教職の魅力を発信するとともに、今後の進路や大学生活、教職に就く道のり等の見通しを持ってもらうことを目的に、京都府中丹教育局が主催され、今年度で2回目となります。

10月27日（日）、京都府総合教育センター北部研修所（綾部市）に、京都府北部地域から高校生27人、京都教育大学生18人、現役教員2人が集まりました。

高校生は、現役若手教員や大学教員、大学生から話を聞いたり、自分の悩みを相談したりしました。「セミナーに参加してよかった。」という生徒は100%で、感想には「教師の魅力についてより深く知ることが出来たし、京都教育大学の大学生の人達と交流して教師になりたいという気持ちがより強まった。」という、うれしい内容の感想が多くありました。

大学生の参加理由の中には、「昨年は高校生として参加させていただき、入試やその後の生活にすごく役立ったため、今年は大学生として参加してお役に立てたらと考えました。」というものもありました。

感想として、「高校生のためのセミナーだったが、大学生の自分にとってもためになるセミナーであり、北部で教師をしたいと改めて思えたセミナーだった。」や「自分自身が高校生の質問に答えてみて改めて京都教育大の良さを感じたし、交流することで自分に力が身に付いた。また若手教員から、教師の魅力ややりがいなど素敵なお話を聞かせていただき、より教師に対する思いが強くなった。」というような内容が多くありました。

高校生も大学生も現役教員も、その会場にいる全員が、自分の今までの振り返り、自分のこれからを考えることができた貴重な時間でした。



センター教員だより

本コーナーでは、教職キャリア高度化センター所属の教職員からのコラムを掲載します。今回の投稿者は民岡薫准教授です。

今年度の4月に、京都府小学校から京都教育大学に転任してきました民岡です。私はこれまで小学校教諭として、教育現場で21年ほど勤めてきました。京都教育大学に転任してからは、授業を担当したり、教員採用試験の対策として学生さんたちと面談をしたりしています。教育現場で経験したことから、また、大学での授業や面談から、これからの予測が難しく変化が激しい社会を生き抜いていくためには、「レジリエンス（しなやかさ、たくましさ、折れない心など）」が大切な力の一つだと感じています。人は生きていく中で、たくさんの困難や失敗、逆境などのつらい体験をします。また、貧困や病気などもともと困難な環境を抱えながら生きていく人もいます。そのようなつらい体験や困難な状況にうまく適応したり、精神的に落ち込んだ状態から素早く回復したりする力がとても重要だと思います。

そのようなレジリエンスを学校現場でも身に付けさせることが大事になっています。学級活動や行事、道徳、部活動、また、学校内の人間関係など、自分も他人も大切にすることや、目標に向かってがんばること、感情をコントロールすることなどの経験を通して、レジリエンスを培っていく。そして、何より逆境に打ち勝つ強い精神力のような「たくましさ」だけでなく、逆境に柔軟に対応する「しなやかさ」も兼ね備えることが重要だと思います。

これからの学校教育では、レジリエンスを伸ばし、社会を力強く生きていける児童生徒を育てる。また、学生・教員自身もレジリエンスを身に付けて、未来を担う子どもたちを育成していくことが大切だと思います。

所属教員

機構長	榊原	禎宏
センター長	原田	信一
センター次長	市田	克利
	樋口	とみ子
専任教員	西山	由美
	吉川	孝
	山下	和美
	民岡	薫
	米澤	武史
	大久保	紀一郎
兼任教員	小山	宏之
	相澤	雅文

連絡先

ボランティアオフィス	075-644-8336
(月～水・金 10:30～13:30、木 10:30～14:30)	
スポーツ指導者養成オフィス	075-644-8143
(月～金 10:00～13:00、14:00～15:00)	
事務担当	075-644-8846/8793
(学術研究支援課研究支援グループ)	

